



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 8

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」サイト (nantokashinaky.jp/)では、東北地方太平洋沖地震の被災地を支援しているプロジェクトメンバーの活動状況について紹介しています。

PROFILE

1968年ニューヨーク出身。大学卒業後、大手コンサルティング会社、投信投資顧問会社などを経て、1996年に「ブラッドストーン・マネジメント・イニシアティブ・リミテッド」を設立。現在は、経営コンサルタント、J-WAVEのナビゲーター、テレビのコメンテーターなどとして幅広く活躍。「なんとかしなきゃ! プロジェクト」著名人メンバー。

最近、アメリカ人の友人に言われてショックだったことがあります。「イラクでは10年間で、15万人の民間人、5,000人のアメリカ人兵士が命を落とした。でも日本では、その間に30万人が自殺している。一体どんな国なんだ?」。私はその時、思わず言葉を失ってしまいました。

この事実が象徴されるように、世界は今、大きくバランスが崩れています。ある調査では、世界の10億人が飢餓で苦しんでいるのに、食べ過ぎによる成人病の人が20億人もいると発表しています。「持てる国」と「持てない国」の「格差」を目の当たりにして、「なんとかしなきゃ!」と思いませんか。そう、今の世界を「なんとかする」のは、私たち先進国の責任なのです。

そんな中、ここ数年、日本の産業界で企業の社会的責任(CSR)が、重要なキーワードとして注目されています。例えば、消費財メーカーのユニリーバはインドに自己資本の会社を立ち上

「持てる国」の企業としてできること

経営コンサルタント/J-WAVEナビゲーター

ショーン・マクアードル川上 (ショーンK)

SEAN McARDLE KAWAKAMI



photo by Shinichi Kuno

げ、安全できれいな水が飲めない地域に無償でろ過機を配布しています。そこで何が起ったかという、人生で初めて、きれいな水で体を洗う気持ち良さを体験した人々が、ユニリーバの石けんやシャンプーを購入するようになった。地域の女性たちの口コミにより売上もどんどん伸びていき、その土地に根差した良いビジネスサイクルが生まれたのです。

しかし一方で、CSRの多くのケースは投資家情報(IR)やプロモーションの域を出ることができず、担当者のジレンマになっているとも聞きます。そこで力を発揮できるのが、世界中にネットワークを持っているJICAのような組織です。日本国内には、国際協力に興味はあるけれど、途上国のこともよく分からないし、何をしたらいいか分からないという企業が本当に多い。自分たちの技術が世界に誇るべきものであるということにも、まったく気付いていないんです。そんな彼らが海外で貢献

できるよう、途上国のニーズを把握しているJICAがコンサルティングしていくのも、援助機関としての大きな役割といえるのではないのでしょうか。

そして企業であれ、途上国であれ、やはり一方通行の支援では限界があります。最終的には、自分たちの力で成長できるよう、相手の自助力を育てることが最も重要だということを忘れてはなりません。

世界には、有能な技術者がまだまだたくさんいます。ですから私自身、途上国の企業のコンサルティングに積極的に取り組んでいきたい。さらに国内でもJICAと協働で企業向けのセミナーを行うなど、日本の官民連携の活性化にも力を注いでいきたいと思っています。

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。
詳しくはこちらから→ nantokashinaky.jp